

## 平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

令和元年 5 月 16 日

代表者 呂 小 耘

研究課題名	5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面に関する縦断的研究
研究期間	平成30年6月14日～平成31年3月31日
共同研究者	なし
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究は、保育の場において、5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面の意義、役割、およびその実態を包括的に検討することを目的とする。</p> <p>絵本の読み聞かせは、幼児の保育・教育に欠かせない重要な活動の1つである。また、保育・幼児教育の場では、家庭のような「1対1の読み聞かせ」という形と異なって、集団の中でより大人数で行うことが多く見られる。また、集団で絵本を読み聞かせることによって、幼児の物語理解やイメージ形成を促すことができる（中澤ら、2005）だけではなく、保育者と子どもたちの安定した信頼関係の上に積み重ねられる共有体験を作り、絵本と子どもの生活が連続した読み聞かせることができると指摘されている（横山・水野、2008）。ゆえに、本研究は保育の場ならではの集団で絵本の読み聞かせ場面に着目したいと考える。</p> <p>具体的に本研究は1年にわたった観察によって、1)5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面の実態（保育者による絵本の選択・絵本の位置づけ、幼児が読み聞かせ場面に参加する様子・話し合いの生起と展開など）及びその変容；2)絵本の読み聞かせから展開する遊びの実態（遊びの中に絵本の要素を取り入れるか）及びその変容、3)子どもが絵本との関わりの実態（絵本コーナーの利用、絵本との接触、子ども同士の話題になるかなど）及びその変容を明らかにすること。</p>	
2. 研究の成果	
<p>本研究は半年にわたった観察及び保育者たちを対象にしたインタビューによって、以下のことを明らかにした。</p> <p>①5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面の実態（保育者の毎月の計画、観察日に選んだ絵本及びその日のねらい）</p> <p>②保育者による絵本の選択・絵本の位置づけ</p>	

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

#### （1）研究成果の公表実績

本研究は、平成30年度の研究は以下において研究成果を発表した。

① EECERA 2018 大会においてポスター発表を1件行った。

発表テーマ：Are There Any Differences When Children Listen to The Stories From Picture Books and From Fairy Tales During 5-Year-Old Class Story-Telling Time?

（ブタペスト、2018年8月）

② 日本乳幼児教育学会第28回大会において口頭発表を1件行った。

発表テーマ：5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面に関する検討ー場の作り方とやりとりに着目してー

（岡山、2018年12月）

③ 日本保育学会第72回大会においてポスター発表を1件行った。

発表テーマ：5歳児クラスにおける絵本の読み聞かせ場面に関する検討ー保育者のねらいと絵本の選び方に着目してー

（東京、2019年5月）

#### （2）研究成果の発表予定

2019年度は継続研究する予定なので、以下のように発表を行う予定である。

① EECERA 2019 大会においてポスター発表を1件行う予定。（申し込み済）

（テッサロニキ、2019年8月）

② 日本乳幼児教育学会第29回大会において口頭発表を1件行う予定。

（山形、2019年12月）

③ 日本保育学会第73回大会においてポスター発表を1件行う予定。

（奈良、2020年5月）